

研究会備忘録

No.

35

研究グループ	<input type="checkbox"/> 効率性研究グループ <input checked="" type="checkbox"/> しくみ研究グループ
日時	平成20年2月20日(水) 16:00~18:00
会場	本館3階 311会議室
出席者	岩下、團野、前田、山下、大道、佐藤 (欠席:小河)
内 容	
テ ー マ	コ メ ン ト
○各課へのアンケートについて	<p>●各課へのアンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2/18(月)の経営会議にて、依頼を行った(電子掲示板に掲載中) ・アンケートの結果から、コミュニティセンターと本庁との関係やコミュニティビジネスの可能性などの検討を行う。
○中間報告会に向けて	<p>●4月4日の中間報告へ向けての調査研究について</p> <p>発表内容の骨格をつくるためのたたき台を提示(団野)</p> <p>下記の課題をベースに骨組みを行い、それぞれ研究を深めて肉付けを行う。 ※住民にとってのメリットが提示できるように</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎自治体のしくみ強化 <ol style="list-style-type: none"> ①「教育体制」のあり方(教職員の人事権、指導要領、クラス編制など) ②基礎自治体の持つべき権限 ③センターで担う範囲、本庁が担うべき役割 ④連携・合併(筑紫地区、都市圏など) ・地域のしくみ強化 <ol style="list-style-type: none"> ①地域の役割分担(区、コミュニティ自治組織の役割、組織のあり方) ②地域組織(自治組織及び校区の再編) ③子ども育成(子ども会、青年団体の見直し) ④定年を迎える人材の活用(コミュニティビジネスなど) ④連携・合併についての協議 <p>必ずしも全てを基礎自治体で行う必要は無いのでは。広域で対応した場合は良い場合もある。</p> <p>自治体の連携により民間に委託することもできるようになるのでは。(コミュニティバスの相互間の乗り入れ、共同運行など)</p> <p>民間が参入できるような事業展開(しかけ)を行えば、住民にとってもメリットになるのではないか。</p> <p><研究の進め方></p> <ol style="list-style-type: none"> I. 現在の市域をベースにしたほうが考えやすいので、まず現行を把握し、スケールメリットが必要となれば、合併・連携を検討する。

	<p>Ⅱ. あるいは、行政界にとらわれずに住民の生活圏（学校、駅、商店街など）におけるユニットを検討していくのも一つの方法ではないか。</p> <p>Ⅲ. 筑紫地区の単位で連携した方がいいものを考える。 水道、消防、バス、保健所、建築確認など</p>
<p>○今後の研究に向けての役割分担</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・筑紫地区の水道事業の現状把握について（小河・佐藤） ・「教育体制」のあり方について（大道・前田） ・行政界を超えた取組の可能性について（山下） ・コミュニティバスについて（団野） ・アンケートの結果集計、コミュニティビジネスについて（岩下）
<p>○次回会議の日程について</p>	<p>●2月28日（木）開催予定</p>